

2025年度日系社会研修（多文化共生推進／日系協力型） 日系サポーター コース概要

NO	5
所管センター	関西
分野	教育
研修コース名（日）	若者エンパワーメント実践：日本の移民状況理解とアジャイルな組織での実践研修
受入人数	1
受入時期	上半期
来日日	2025年5月11日（日）
帰国日	2026年2月4日（水）
提案団体（日）	immi lab（イミラボ）
提案団体 ウェブサイトアドレス	<a href="https://www.immilab.org/">https://www.immilab.org/</a>
研修員必要資格	英語での業務が問題なく遂行できる（TOEFL iBT 85以上相当がのぞましい） 大学卒業相当、または卒業見込み
研修員に必要な実務経験年数	実務経験1年以上
日本語能力（選択） ※日本語能力試験認定の目安参照	N4
ポルトガル語 スペイン語能力	ポルトガル語（母語）
研修目標	日本の移民ルーツの人々の現状やimmi labの現活動をグローバル視点を持って理解し、現場での支援や組織運営方法のノウハウを習得し、最も効果的と思われる方法の考案に貢献する。
期待される成果 （習得する技術）	<p>①日本の移民ルーツの人々の現状を理解し、若者の伴走支援のノウハウを習得する。</p> <p>②伴走支援運営とNPO法人運営を経験し、習得する。</p> <p>③英語・ポルトガル語、可能であれば日本語での移民課題やアプローチをオンラインで発信する経験を積み、習得する。必要な日本語習得も含む。</p>

<p>研修計画（内容）</p>	<p>講義：日本国内の移民ルーツの人々がうける格差、伴走支援、オンラインでのコンテンツ発信など  見学：滋賀県内のブラジル学校、関西圏の若者支援団体、海外ルーツの若者が在籍する大学など  実習：プロジェクトポソテの伴走支援、メンター確保や協力者あつめを目的とした国内・国外両方への広報  言語：日本語語学研修</p>
<p>研修実施の背景／日本国内の中南米出身者のコミュニティにおける現状、多文化共生等課題解決を推進するにあたっての問題・現状等</p>	<p>日本で暮らす移民ルーツの若者の高校進学率は40~60%、非正規就職率は40%と全国平均と比べて大きな格差が生じている。特にブラジルルーツの若者で大学出身者は少ない。約1万人のブラジルルーツの人々が暮らす滋賀県では、中学卒業後に工場勤務することが多いため、それ以外の仕事の選択肢を取ることも難しい。ブラジル系移民は多くが日系ビザで来日するが、子どもたちの世代は日本で育ったため、ブラジルで就職する選択肢も現実的ではない。この格差の原因は、若者が日本社会から孤立していることである。結果、「進学や就労に関する仕組みが分からない」「日本に10年以上いるのに電車で1人で乗ったことがない」などの状況が生まれており、コロナ禍でさらに進んだ孤立ゆえ、工場勤務から抜け出したくても抜け出せない若者が増えている。  移民ルーツの若者は進学しても就職しても、文化や生まれの違いによる壁にぶつかる。実際、公立高校を卒業し日本語がある程度できても、多くが非正規就職につく。根本的な課題解決のため、immi labは若者のレジリエンス（困難を乗り越える力）を高める事業「プロジェクトポソテ」を行っている。レジリエンスを高めるには、①小さな成功体験の積み重ね、②困難な状況に陥った時のリソースの多さ、③自己肯定感と自尊心、が必要である。それらを提供するため、若者に1対1でのメンターをマッチングし、若者主体の挑戦を伴走している。メンターは若者にとってブラジルコミュニティの外の「初めての友達」であることが多く、一緒にこれまでにない経験したり、人脈を広げたりしている。初めは話すこと自体に抵抗がある若者も、信頼関係を気づいた後には、親にも話さないことを相談をし始めることもある。今後の人生で困難な状況に陥った時にも、メンターと一緒に挑戦できた経験がレジリエンスを発揮できるきっかけになることを目指している。</p>
<p>本研修実施の意義  応募者への裨益効果</p>	<p>本研修では、研修員がブラジルルーツの若者の挑戦伴走支援をおこない、日本国内の大学受験に限らずブラジルや日本国外での進学や就職に向けた準備の支援も行う。若者の多くは「ブラジル人」と呼ばれるもののブラジルに行ったことがない者が多いので、ブラジルからの研修員に大きく刺激を受けることに加え、ブラジル国内の進学や就職に関する最新情報を若者に提供することができる。また、研修員にはimmi labが今試験的に始めている日本国外に向けたこの課題とアプローチの発信にも関わってもらおう。日本の移民課題を国際基準で理解し、世界からの関心を高めることで、これまで国内では長クタブーとされてきたこの課題にも新しいアプローチが生まれると考える。  研修員は、日本にいるブラジルルーツの若者の状況と移民課題のリアルについて肌身で感じて学ぶことができる。また、伴走型キャリア支援のノウハウやNPO法人の運営方法、多言語での広報についてを学ぶことができる。immi labの運営チームは20~30代の若く起業家精神が高いメンバーが多く、また多文化・多言語での運営を行っているため、特異なソーシャルイノベーション団体での経験を積むことができる。また、immi labは日本国外の日系コミュニティとの連携を将来的には考えているため、研修員がブラジルに帰還した後も有益になるネットワークなどを提供できると考える。</p>
<p>応募希望者への特記事項</p>	<p>immi labはNPO法人に登録予定ですが、若くてエネルギーがあるスタッフが多いため、スタートアップのような環境でも自分がやるべきことを見つけて動ける自主性を持っている方を優先します。特に、広報に関係するスキル（インタビューやライティング、ウェブ関連など）がある方を優先します。  研修参加者は運営チームとの連携業務に関しては英語で可能ですが、生活や他団体との連携などを通して学びを深めるために日本語をできるだけ学んでいただきます。</p>